



浜名湖観光圏

観光圏とは、自治体の枠を超え、官民一体で取り組む観光地域づくりです。

住んでよし、訪れてよし。

自然・歴史・文化等において密接な関係のある観光地を一体とした区域であって、区域内の関係者が連携し、地域の幅広い観光資源を活用して、観光客が滞在・周遊できる魅力ある観光地域を促進するものです。



日本の観光圏認定地域

全国では北海道から九州まで12の観光圏が認定されています。



浜名湖観光圏

観光地域づくりの理念

— 新たな価値を生み出す — **光溢れる創造の郷へ**

〈理念の考え方〉

「光溢れる」

「光」は「観光」を指す。「観光」の由来である「動國之光」（易経）の「國の光を觀る」の「光」を指す。「光溢れる」とは、ものづくりのみならず、観光においても常に新たな価値を創造していかうとする市制を表現。

「創造の郷へ」

「創造の郷」とは、浜松市の目指す「創造都市」、湖西市の目指す「多文化共生のまちづくり」を指し、観光分野においても常に新たな価値を創造し、国内外を代表する「住んでよし、訪れてよし」のブランド観光地域づくりを目指すことを表現。「郷」にすることで、浜名湖周辺の自然豊かな里山・里海の地を表現。

ブランドコンセプト

「海の湖」浜名湖からはじまる新たな物語

〈コンセプトの考え方〉 海と湖が繋がったとき、豊かな恵が生まれ、ものづくりがはじまった。たおやかにダイナミックに日々移り、生きている浜名湖。ここから生み出す力を得て、私たちは新たな物語を編んでいく。

浜名湖の源流は清らかな水がわき出る奥浜名湖・「井の園」であった。この豊かな水に育まれて「直虎」は成長し、井伊家の再興を果たして徳川幕府260年余の平和をもたらした。

浜名湖観光圏整備推進協議会

浜松市、湖西市、静岡県、(公財)浜松観光コンベンションビューロー、館山寺温泉観光協会、舞阪町観光協会、奥浜名湖観光協会、湖西市観光協会、新居町観光協会、NPO法人浜名湖観光地域づくり協議会、NPO法人はまご里海の会、浜名湖地域舟運都市構想研究会、遠州信用金庫、遠州鉄道(株)、浜名湖遊覧船(株)、浜松商工会議所、浜名湖えんため、浜名漁業協同組合、(公財)浜松市花みどり振興財団、NPO法人秋葉街道ツーリズム、(一社)浜松商店界連盟、天竜浜名湖鉄道(株)、浜松ホテル旅館協同組合、東海旅客鉄道(株)静岡支社、三ヶ日町観光協会、中日本高速道路(株)東京支社浜松保全・サービスセンター、NPO法人 Sea Net浜松 (27団体)

浜名湖観光圏の取り組み 平成28年度の主な検討内容



浜名湖の水上交通

1. 浜名湖全域における舟運構想イメージ像の作成
2. 浜名湖SAゲートウェイ化構想イメージ像の作成



サイクルツーリズム (ハマイチ)

1. ぐるっと浜名湖サイクルツーリズム事業の再構築
2. 浜名湖SAの多機能化実験(船と自転車での移動など)
3. 機能を終えた道路空間の再配分の仕組みづくり



フラワーツーリズム

1. 浜名湖花フェスタ2016開催による周辺観光施設への周遊と活性化
2. 浜名湖花フェスタ2016を活用したインバウンド客誘致(主に台湾、タイから)



浜名湖のブランド化

1. 着地型旅行商品の企画・造成・販売体制の確立(DMO機能)
2. 「海の湖」コンセプトのビジュアル化(写真撮影)
3. ブランドコンセプト「海の湖」を表現する写真撮影
4. 着地型旅行商品の企画・造成・販売体制の確立



インバウンド推進

1. 外国人目線の受入態勢の整備促進(宿泊人数ではなく、市内と浜名湖周辺の回遊を目指す)



大河ドラマ「おんな城主 直虎」を契機にした観光地域づくり

1. 大河ドラマの舞台と浜名湖花フェスタ2016等、PRの相乗効果
2. 奥浜名湖と南浜名湖の歴史エリアとの回遊性の向上を図る。

浜名湖観光圏シンポジウムの開催

- 開催日：平成28年2月1日(月) 13:30~16:30(開場13:00)
- 会場：アクトシティ浜松「コンgresセンター」41会議室
- 申し込み方法：ホームページにて団体名・氏名をお知らせ下さい。(公財)浜松観光コンベンションビューロー TEL053-458-0011
- 基調講演：～地方創生における観光地域づくりの重要性と観光圏の取組～
〈講師〉清水 慎一氏 観光圏推進協議会会長

“観光圏”

官民一体で魅力アップ

～周遊・滞在型旅行の増加目指す～

複数の観光地が自治体など従来の枠組みを超えてその魅力を発信する「観光圏」の取り組みに注目が集まっている。国土交通省が認定した全国10か所の観光圏*で組織する「観光圏推進協議会」は、東京都内でシンポジウムを開き、観光圏の取り組みや課題などについて意見を交わした。

*平成24年12月に改正した基本方針に基づき認定された地域

地方創生の先駆け

観光圏は、複数の観光地の官と民が連携することで、観光客が「滞在・周遊できる」観光地づくりを行っているのが特徴です。国土交通省が2013年に「雪国」や「八ヶ岳」など六つの地域を認定、14年7月には「海の京都」など新たに4地域を認定しました。シンポジウムには、そのうち五つの観光圏の代表理事などが出席し、各観光圏の特徴や地域主導の取り組み、課題などを報告しました。観光圏がある新潟、山

梨徳島、京都の各府県の知事や副知事から「観光圏の取り組みを積極的に協力・応援していく」とのメッセージが寄せられました。シンポジウムには観光庁の久保成人長官も参加し、観光圏の取り組みへの期待などを述べました。久保長官は、「地方創生が国として大きなテーマとなるなか、観光圏は、日本全体の観光を引っばっていく重要な存在だ。観光圏の魅力向上が、日本全体の観光力アップにつながることを信じている」と意義を強調。そのうえで、「地域が一体となって広域的なネットワークを作り、海外などに向かって発信していくことが必要だ」と、従来の枠を超えた連携が大切だとの認識を示



観光庁長官 久保成人氏



観光庁 観光地域振興課長 川瀬弘之氏
内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局次長 伊藤明子氏

パネルディスカッション 住んでよし、訪れてよし

「周遊の交通手段確保が不可欠」
観光圏推進協議会会長
八ヶ岳観光圏 小林昭治氏



個人旅行が今後増加が見込まれており、駅に着いたあとの交通手段をどう確保し、地域を回遊していただくのが重要な課題となっています。八ヶ岳では、宿泊施設等が負担金を出し合って駅と宿泊施設等を結ぶバスも運行しています。4～11月限定だったのが、今年にも実証実験を行います。お客様を向いた商品、サービスを提供するには、行政や鉄道会社とも連携することが欠かせません。増加する外国人観光客に対応するため二次交通検討分科会を立ち上げたところ

「観光と農業の連携が課題」
富良野・美瑛観光圏 松本政治氏



富良野・美瑛では、農業が基幹産業です。その美しい景観を一目見ようと、多くの観光客がいらっしやいます。ただ、写真を撮る際に、まるで自分の土地かのように農地に入ってしまうことが、ここ4、5年で増えています。特に外国人観光客に対し、日本のマナー

と、多くの観光客がいらっしやいます。ただ、写真を撮る際に、まるで自分の土地かのように農地に入ってしまうことが、ここ4、5年で増えています。特に外国人観光客に対し、日本のマナー

をどう伝えていくかが課題となっています。農業が生み出す景観や食を使わせてもらっている観光客が、農業側の意見を真摯にお聞きする「農業環境会議」が始まり、連携体制ができています。

「宿泊施設の認証制度を導入」
雪国観光圏 井口裕裕氏



雪国観光圏は、宿泊施設の認証・認証事業を本格的に導入しています。お客様に、安心して宿を選んでもらうのが目的です。施設側には格付けへのアレルギーがありますが、我々が導入している制度では、事前に調査項目を施設側に示し、合意のうえで星を付けています。直すべき点が分かりますので、結果として宿泊施設のレベルが上がります。導入が広がれば、日本全体の観光品質向上につながるのです。観光圏の共通事業として進められたらと考えています。

「外国人観光客による気付き」
にし阿波・剣山・吉野川観光圏 植田佳宏氏

日本人観光客は1泊のみという方が大半だが、外国人は何泊もされる。すると、2泊目の食事や滞在プログラムの必要性など、

これまで思っても寄らなかつた課題に気が付かせていただき、ありがとうございました。

彼らは世界を見回っている。日本の地方には、彼らが求めるものがたくさん埋もれている。それを磨き、彼らに示すことが、競争力の高い観光地づくりにつながるのです。

「枠組みを超えた幅広い連携」
「海風の国」佐世保・小値賀観光圏 中島大幸氏



佐世保市役所では、市の成長戦略に「観光」が盛り込まれ、全庁的に観光振興に取り組むという意思統一が図られています。プロジェクト会議は庁内横断的な組織となっていて、観光関連以外の部署も参加しています。道路を造る際にも、観光客がどういうルートを通るか、標識に外国語の表記が必要ではないかなど、それぞれの分野で観光を意識した動きが出始めている。従来の枠組みを超えた連携を進めながら、ブランド観光地域として、持続発展していく地域の基盤をつくりたいと考えています。

自治体など従来の枠組みを超えて連携

- 観光圏の特徴
- 情報提供の充実・強化
- 観光コンテンツの充実
- 宿泊施設の魅力向上
- 周遊バスなど利便性向上
- 外国人受け入れ環境の整備

「地域の熱い思いが感動に」
立教大学観光学部 准教授 豊田三佳氏

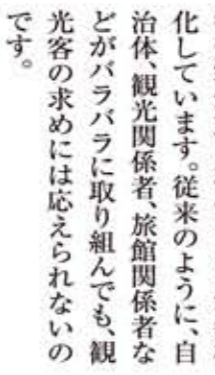
海外と比べ、日本の観光はうにどこも似ていて、一時的なものに流されやすい。その中で、独自の魅力を打ち出そうとしている「観光圏」は、これから進めて行くべき取り組みだと思えます。地域の人が自らの地域の特徴を考え、学び合う過程を経て発信する熱い思いは、訪れた人の感動となり、それは長く残ります。外国人観光客も含めて、質の高い、本物の旅を求めている人たちが探し当てられるよう、うまく情報を提示することが大切です。



豊田三佳氏

「観光圏、三つのポイント」

観光圏の取り組みで大切なポイントが三つあります。まず、一過性ではなく持続的な取り組みだということです。あくまで将来を見据えて地域の魅力向上に取り組んでおり、世の中ではやっ



観光地域づくりプラットフォーム推進機構会長 清水慎一氏

二つ目が、自治体や業界団体など従来の枠組みを超えて連携

しているという点です。最近では、観光客が旅に求めることが多様化しています。従来のように、自治体、観光関係者、旅館関係者などがバラバラに取り組んでも、観光客の求めには応えられないのです。三つ目は、オリジナルを追求しているということ。ほかの真似はせず、その地域にしかないものを打ち出していきます。地域の文化、歴史を活用すれば十分ブランドになるのです。観光圏の成果が出るのはこれからです。課題を共有しながら、それぞれの地域が「日本の顔」を目指すという志をもって取り組んでほしいと思います。



観光圏推進協議会 <http://yatsugatake-tm.com/>
事務局：(一社) 八ヶ岳ツーリズムマネジメント

観光庁 <http://www.mlit.go.jp/kankocho/>

観光圏推進協議会とは

観光圏推進協議会とは、観光庁による「観光圏の整備事業」において認定を受けた全国の観光圏が、平成26年6月13日に立ち上げた新たな組織です。観光圏独自の価値に基づく観光を切り口とした地域づくり、そして今後のインバウンド獲得に向けた広域連携等について、全国に展開する観光圏が共通の課題改善に向けて情報共有し、検討することを目的としています。現在、平成25年4月に認定を受けた6地域に、平成26年7月に新たに認定された4地域を加えた全10観光圏によって構成されています。

【構成観光圏】

- 富良野・美瑛観光圏
- にし阿波～剣山・吉野川観光圏
- 二セコ観光圏
- 八ヶ岳観光圏
- 海風の国 佐世保・小値賀観光圏
- 海の京都観光圏
- 雪国観光圏
- 阿蘇くじゅう観光圏
- 浜名湖観光圏
- 豊の国千年ロマン観光圏